

耳の聴こえない役者さんのお話

寒い日もありますが、暖かい日が増えてきていて、まさに「三寒四温」といった気候ですね。今回は、スペースワンのカイトスロケットについて書こうと思っていたのですが、宇宙開発の話が続いてしまったのと、打ち上げ実験としてのデータの検証はこれからとしても、カイトスロケットの打ち上げそのものは失敗してしまったので、少しちがう話をつぶやこうと思います。

先日、とあるところで「ろう者（日本語を身につけるする前から耳が聞こえず、手話で話す人）」の役者の方と同席する機会がありました。ご一緒されていた所属会社の方が手話を通訳してくださり、その方も含めてお2人からいろいろとお話を聞くことができました。お話した内容をすべておぼえているわけではありませんが、とくに印象に残ったところはいくつかあります。また、興味がわいたことについていくつか調べてみたりもしました。

今まであん Do は「手話というのは日本語を手の合図におきかえて話す技術だ」と思っていたのですが、文法などの点で日本語とは違う部分があり、「別の言語」と考えた方が良さそうです。手



うごきの動きが同じでも、^{ひょうじょう}表情によって伝える^{かんじょう}感情が変わることもあり、^{たが}お互いの目をしっかり見て^{はな}話すのがマナーだとおっしゃっていました。^{つうやく}通訳して下さった方は、「目上の人にあやまったりする^{とき}時、ついつい下を向いてしまい、^{おこ}怒られることもある。」とおっしゃっていて、^{ふだん}私たちが^{いしき}普段の会話で意識していないところにも大きな^{ちが}違いがあることがわかりました。

(日本語と同じ^{ぶんぽう}文法で^{ことば}言葉を伝えていく、^{にほんごたいおうしゅわ}日本語対応手話というのものもあるそうです。)

役者さんということで、^{えんぎ}演技も^{ひょうじょう}表情と手話で行います。^{えいが}映画を^{じょうえい}上映するときには、手話で会話している部分は日本語の^{じまく}字幕、海外で上映する時は、日本語と^{えいご}英語など、二か国語の^{じまく}字幕を表示するそうです。インターネットで^{よこくへん}予告編の一^{ばめん}場面を見てみました。あん Do は手話を^{りかい}理解することができないので、^{じまく}字幕を^よ読んでいたのですが、^{じょうほう}音から^{じょうほう}情報をとることができない私たち（^{ちようしゃ}聴者）と^{くら}比べて^{ひょうげん}表現の^{はば}幅がせまいなどということは決してなく、^{ぎやく}逆に音がなくても^{つた}生き生きと伝わってくる^{かんじょう}感情に^{おどろ}驚かされました。



残念ながら、ろうの方が学べる演技の学校というものはないそうで、その世界で生きてきた先輩方から学んでいくことが多いそうです。あん Do がいる「中学受験」という世界も、視覚や聴覚に限らず、障がいがある方に開かれているとは言えません。テクノロジーの進歩で改善されていく部分もあるでしょうが、結局のところそれを使うのは人間です。さまざまな事情、困難に対して理解を深め、全ての人が目標に向かって生きていけるような社会を作っていかなければならないな、と改めて考えさせられるお話でした。

この先の世界を作っていくきみたちも、自分たちのすぐ近くにいる人のことだけでなく、さまざまな人のことを知り、思いうかべ、考えることができる人になっていって欲しいと思います。勉強以外の学びもがんばってくださいね。

24/3/14 (顔だけでも喜んでるとか怒ってるとか伝わるよね?) あん Do